

『図学研究』執筆要領

《図学研究》査読要領作成にともなう執筆要領改定（案）

2011年

日本図学会は、学会誌『図学研究』を年4回発行している。本会誌には投稿原稿と依頼原稿の2種がある。執筆にあたっては、本学会の執筆要領に準拠すること。また、内容については著者が全責任を負うものとする。

1. 原稿種別

原稿は「論文」、「資料」、「記事」、「会告」の4種に大別され、さらにその内容および長さによっていくつかの種別に分類される。掲載原稿の先頭ページに種別が明示されるので、投稿時に申告する。論文および資料は査読を経て採録が認められたもののみ掲載される。

A. 論文

図学に関連した理論的または実証的な研究に基づくもので、独創性、学術的有用性、信頼性、発展性、完成度を有するものでなくてはならない。以下の2種に分類される。

●研究論文、教育論文

完成度が高いもの。

6～10ページ内を基本とし、偶数ページの区切りとする。

●研究速報

特に内容上、速報性が求められるもの。

4ページ以内を基本とする。

B. 資料

図学に関連した内容をもち、学術的有用性、信頼性、発展性、完成度を有するもので、以下の3種に分類される。

●研究資料

研究に有用と考えられる資料。4～10ページを基本とする。

●教育資料

教育に有用と考えられる資料。4～10ページを基本とする。

●図学ノート

研究・教育に関する資料で上記2種ほどの分量に達しないもの。2ページ以内を基本とする。

C. 記事

図学に関連した内容をもつもので、以下の9種からなる。

●解説

研究・教育レビューや研究トピックスの紹介など。

●講座

研究・教育に有用な事例・手段・方法に関する講座。

●文献紹介

海外文献や国際会議などにおける講演論文の翻訳紹介またはその書評。

●新刊紹介

会員が執筆した著書や会員の研究・教育に役立つ書籍の紹介。

●作品紹介

芸術、デザイン、建築などの作品の紹介。

●寄書

図学および図学会に関する所感や小論。

●巻頭言

編集委員会の依頼に基づく自由な論説。

●大会要旨

大会における研究発表の要旨。

●研究会・会議・支部研究会報告

会議、研究会などの報告。

D. 会告

理事会報告、支部報告、大会等開催記事、各種会議会告、事務局および編集委員会が必要とする記事、他学会開催通知、教員公募、広告、編集後記など。

2. 原稿の構成と書式

提出原稿は、A4サイズを縦位置に使用し、文字は10pt前後で横組に組み、以下の内容を含める。構成は原稿見本を参考にする。査読を受ける原稿には、著者名、所属および謝辞を含めない。

A. 表題

内容を簡潔に、しかも具体的に表現するような単語を入れて、和文と英文でつける。研究に連続性がある場合には内容を具体的に示す副題をつける。

B. 著者名（査読を受ける原稿には含めない）

研究すべてにわたって内容を理解し責任を負える立場の人が連
名者になる。その他の共同研究者については、謝辞に記載する
ようにする。

和文と英文(名前・姓)で入れる。

C. 概要とキーワード

内容を短く要約したものを、和文200字から400字以内、英文
200words 以内で簡潔に記述する。また、和文・英文要約の最
終行にそれぞれ 図学会が定めた下記の分類キーワードを含めた3
~5語を記述する。ただし、研究論文以外の原稿については和文・
英文概要は必要としないが、キーワードは表記する。

●基本分類キーワード

図学論 / 設計論 / 造形論 / 平面幾何学 / 空間幾何学 / 応用幾何学
/ 形態構成 / CG / 形状処理 / 画像処理 / CAD・CADD / 図学教育
/ 設計・製図教育 / 造形教育 / 教育評価 / 空間認識 / 図学史

C. 本文

全体の文字数は別紙の刷り上がり見本を参照し、見出し、図
版、表、最終ページの著者紹介分などのスペースを考慮し、規定の
ページ数に余裕をもっておさまるようにする。

●印刷仕上がりページ文字数

第1ページ目：875字(25字詰め×35行)

第2ページ以後：2200字(1ページ=25字×44行×2段)

a. 章・節・項

●章(大見出し)は前の文章から1行あけて、2行目に入れ、改行
後 次の文章を続ける。章のナンバーはアラビア数字+ピリオド(.)
とし、その後にタイトル名を記す。

●節(中見出し)・項(小見出し)は前の文章から行をあげず、改
行後、1行に入れ、また、改行後、次の文章を続ける。

節・項のナンバーはアラビア数字+ピリオド(.)を用い、章との
関係は、「1.1.1.」というように、半角数字とピリオド(.)
で表示し、そのあとにタイトル名を記す。

●項を更に細分する場合には、小文字アルファベットa, b, ... を
用い、行頭より1文字分あけて、ピリオド(.)の後、タイトル名
をつけ、改行後、次の文章を続ける。

例：

2. 図形の回転

3. 2. 1. モデルの計測

a. 計算

●さらに細分する場合は、著者の分類に委ねる。

b. 謝辞(査読を受ける原稿には含めない)

見出しをつけずに、結論から一行あけて書く。

E. 図・写真・表

論文の内容を的確に伝えるために、必要最低限のものを載せる。ま
た、文章中に簡潔に内容を説明する。なお、他人の図表を転載する
場合には、必ずその旨明示するとともに、著作権にかかわるものを
使用する際は著者の責任をもって事前に処理する。

図・表は各々別々に通し番号をつけ、図1、表2のように
日本語で表し、これに続けて表題をつける。

F. 注

本文中では挿入箇所の右肩に注1)、注2)、注3)のように記号
をつけ、本文最終行から1行あけて、同一の記号を行頭につけて列
記する。

G. 参考文献

必要最小限にとどめる。原文が手に入らないときは、先に引用した
者の名前を引用し、出典を明確にしておく。

a. 文章中の引用

文章中では引用箇所の右肩に[1]、[2]、[3]~[6]のよ
うに角括弧ではさんで通し番号をつける。文献は本文末尾にまとめ
て書く。

b. 記載の形式

1) 論文の場合

著者名¹⁾、表題²⁾、誌名³⁾、巻・号(発行年)、頁。

* 1 欧文の場合には筆頭者はFamily Name, First Name の
Initial. の順に記す(以下、同様)。

* 2 欧文の場合は斜体とする。

[1] 鈴木学, “透視図に関する研究”, 図学研究, 32.2(1983), 1-6.

[2] Cooley, J. and Turkey, J., “An Algorithm for the Machine
Calculation of Complex Fourier Series”, *Math. Compt.*, 19(1965),
297-301.

[3] Kajiyama, K., “Design of Computer Assisted Learning
System for Reading a Drawing”, *Proc. 6th ICGG* (1994), 267-271.

2) 単行本の場合

著(編)者名³⁾、書名⁴⁾、発行所名(発行年)。

* 3 欧文の場合は欧文の場合はFamily Name, First Name
のInitial. とする。

* 4 欧文の場合は斜体とする。

[1] 小山清男, 幻影としての空間, 東信堂(1996).

[2] Klotz, H., *20th Century Architecture*, Rizzoli (1989).

3) その他: 単行本掲載論文

著者, “表題”, 単行本の編者, 書名⁵⁾, 出版社(発行年), 頁。

* 5 欧文の場合は斜体とする。

[1] 小山清男, “ルネサンス絵画の空間表現”, 日本図学会編, 美の図学(1997), 221–230.

[2] Evance, R., “Architectural Projection”, Blau, E. and Kaufman, E. (eds.), *Architecture and Its Image*, Canadian Center for Architecture (1989), 18–35.

1. 著者紹介 (査読を受ける原稿には含めない)

本編の最終段・行に, 著者名の読み (ひらがなで1行分), 所属, 生年月日, 経歴, 研究領域, 論文・著書など・連絡先 (Email or 住所を1行分) を1名分につき, 200字以内に記す.

3. 表記

A. 文体

文章は原則として日本語の口語体を用い, 欧文または片仮名書きを必要とする部分以外は漢字まじり平仮名書きとする.

B. 漢字・仮名

漢字は常用漢字を用い, 仮名は現代仮名づかいによる. ただし, 外来語は片仮名書きとする.

C. 句読点と括弧類

文章中の句読点は, ピリオド(.), カンマ(,), 中点(・), コロン(:), および各種括弧などはそれぞれ1文字分用いるが, 印刷組版の際 禁則処理などの都合でスペース調整する場合がある.

D. 外国語

外国の地名, 人名などの固有名詞は原文表示とするが, 一般化されているものは片仮名でよい.

E. 用語

a. 原則として文部省編「学術用語集」, 「JIS 用語集」および学会の定めた標準用語などに従う.

b. 特殊用語などは脚注をつけるとよい.

F. 数字, 年号

a. 数量を表すとき, あるいは序数的表現の時はアラビア数字を用いる. また, 漢字と結合して名称や概数を表すときは漢数字を用いる.

例:

0.5 mm, 図 1; 三角形, 数百の

b. アラビア数字は原則として半角数字とする. 年号は西暦による表記を原則とする.

例:

0.9683, 1.795×10⁴, 315902; 2001年

G. 数式

a. 文章と同じ行中にある場合は, 1行におさまるように書く.

b. 別行に示す場合には, 原則として1段の幅におさめ, 各式の行の右端には両括弧のアラビア数字で通し番号をつけ, 文中で引用する場合には, 式(1)のように書く.

c. 数式は必要最低限にとどめ, 詳細が必要な場合には付録にまわす.

H. 単位

国際単位系(SI)に原則として従い, 単位に括弧はつけない.

4. 投稿手続き

A. 提出

投稿にあたっては, 投稿申し込み票, および原稿PDFファイルを提出する. 全ての文字原稿は規定の頁数・文字数内で, 前述「2. 原稿の構成と書式」の仕様に準じたものとする.

C. 最終原稿の提出

掲載決定通知を受けたものは, 著者名, 謝辞, 著者紹介を加えた最終原稿を, 採択通知で指定された方法により提出する.

D. 提出先

本学会のWebページで提供する投稿システムを用いて提出する.

5. 投稿から掲載まで

A. 原稿受付日

原則として本学会に原稿の到着した日とする.

B. 査読と訂正

a. 査読の結果, 訂正, 加筆などの必要が生じた場合には, 期限をつけて著者に修正を依頼する. 修正期限を越えた場合には, 再提出された日を新たな原稿受付日とする.

b. 査読後の訂正は原則として認めない.

6. 掲載別刷料

以下に定める掲載別刷料の規定にしたがって納めるものとする。

ページ数	2	4	6	8	10
論文			5	7	9
研究速報	2	4			
資料		4	6	8	10
図学ノート	2				

(単位 万円)